

地域医療連携センター

A 欧 文

A-a

1. Kubo S, Kawasaki K, Yokota H, Hayashi Y: Five-year clinical evaluation of two adhesive systems in non-carious cervical lesions. J Dent 34(2): 97-105, 2005 *

B 邦 文

B-a

1. 山口真美, 楠本順子, 川崎浩二, 大園恵幸: 退院困難リスク評価用紙導入による病棟看護師への教育的効果について. 日本看護学会論文集 35(1): 132-135, 2005

B-b

1. 川崎浩二: 【特集: 母乳—子どもと親への生活支援(3)地域とともに考える母乳育児支援】公衆衛生的視点からの提案. 小児歯科臨床 10(3): 26-32, 2005
2. 林田秀明, 北村雅保, 川崎浩二: 長崎県島嶼地域における口腔健康状態と動脈硬化指標との関連. 口腔衛生学会雑誌 55(4): 392, 2005
3. 山部一実, 森 隆, 川崎浩二, 飯島洋一: 長崎県福島町における10年間の乳幼児歯科保健管理—第1報 歯科保健管理の概要とう蝕有病状況の推移—. 口腔衛生学会雑誌 55(4): 405, 2005
4. 川崎浩二, 山部一実, 森 隆, 飯島洋一: 長崎県福島町における10年間の乳幼児歯科保健管理—第2報 5歳児う蝕に関わる1歳・3歳のリスク要因分析—. 口腔衛生学会雑誌 55(4): 406, 2005
5. 川崎浩二, 林田秀明, 北村雅保, 原口尚久, 古堅麗子, 福本恵美子, 川下由美子, 飯島洋一, 新庄文明: 1.6歳う蝕ハイリスク児を対象とした地域予防管理システム. 口腔衛生学会雑誌 55(4): 443, 2005
6. 松尾敏信, 川崎浩二, 飯島洋一, 新庄文明: 顎関節自覚症状を有する生徒に対する学校現場における個別指導の効果. 口腔衛生学会雑誌 55(4): 450, 2005
7. 寺崎裕憲, 和田英行, 中村康司, 藤樹 亨, 森本 智, 太田信知, 松島俊一郎, 吉原 徹, 前田哲治, 吉田 敏, 栗山拓代, 川崎浩二, 吉田治志: 要介護高齢者の日常生活に対する口腔ケア介入の効果. 日本障害者歯科学会雑誌 26(3): 497, 2005

B-c

1. 楠本順子, 山口真美, 向田圭介, 川崎浩二, 大園恵幸: 長崎県下訪問看護ステーションの現状と大学病院との連携状況. 第5回医療マネジメント学会長崎地方会抄録集, pp. 19, 2005
2. 川崎浩二: 特別の配慮を要する人々とのコミュニケーション. (G. Kent R. Croucher(著)新庄文明, 山崎久美子, 俣木志朗(監訳): 歯科医療 人間科学へのいざない, 医歯薬出版, 東京, pp. 202-218 所収)2005
3. 北村雅保, 福田英輝, 川崎浩二, 重政昭彦, 新庄文明: Modified Significant Caries Indexによる幼児期のう蝕有病状況地域比較の試み. 第27回日本口腔衛生学会九州地方会総会プログラム, pp. 11, 2005
4. 楠本順子, 川崎浩二, 山口真美, 向田圭介, 大園恵幸: MSW職務に対するMSWと他職種間の認知相違について. 医療マネジメント学会第4回九州・山口連合プログラム・抄録集, pp. 111, 2005
5. 川崎浩二, 楠本順子, 山口真美, 向田圭介, 大園恵幸: 退院困難リスク評価用紙の妥当性の検討. 医療マネジメント学会第4回九州・山口連合プログラム・抄録集, pp. 115, 2005

B-d

1. 全国国民健康保険診療施設協議会 経口摂取障害者支援体制の在り方検討委員会(新庄文明, 植田耕一郎, 山本和儀, 川崎浩二 他12名): 経口摂取障害者の実態調査と、生活自立度改善を目的とした口腔機能リハビリ推進事業報告書. 平成16年度厚生労働省老人保健健康増進等事業報告書, 2005

原著論文数一覧

	A-a	A-b	A-c	A-d	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	合計	総計
2005	1	0	0	0	1	1	1	7	5	1	14	15

学会発表数一覧

	A-a	A-b		合計	B-a	B-b		合計	総計
		シンポジウム	学会			シンポジウム	学会		
2005	0	0	0	0	0	0	10	10	10

原著論文総数に係る教員生産係数一覧

	欧文論文総数	教員生産係数 (欧文論文)	SCI掲載論文数	教員生産係数 (SCI掲載論文)
	論文総数		欧文論文総数	
2005	0.067	1	1	1

Impact factor値一覧

	Impact factor	教員当たり Impact factor	論文当たり Impact factor
2005	1.636	1.636	1.636